

馬場川通り アーバンデザイン プロジェクト

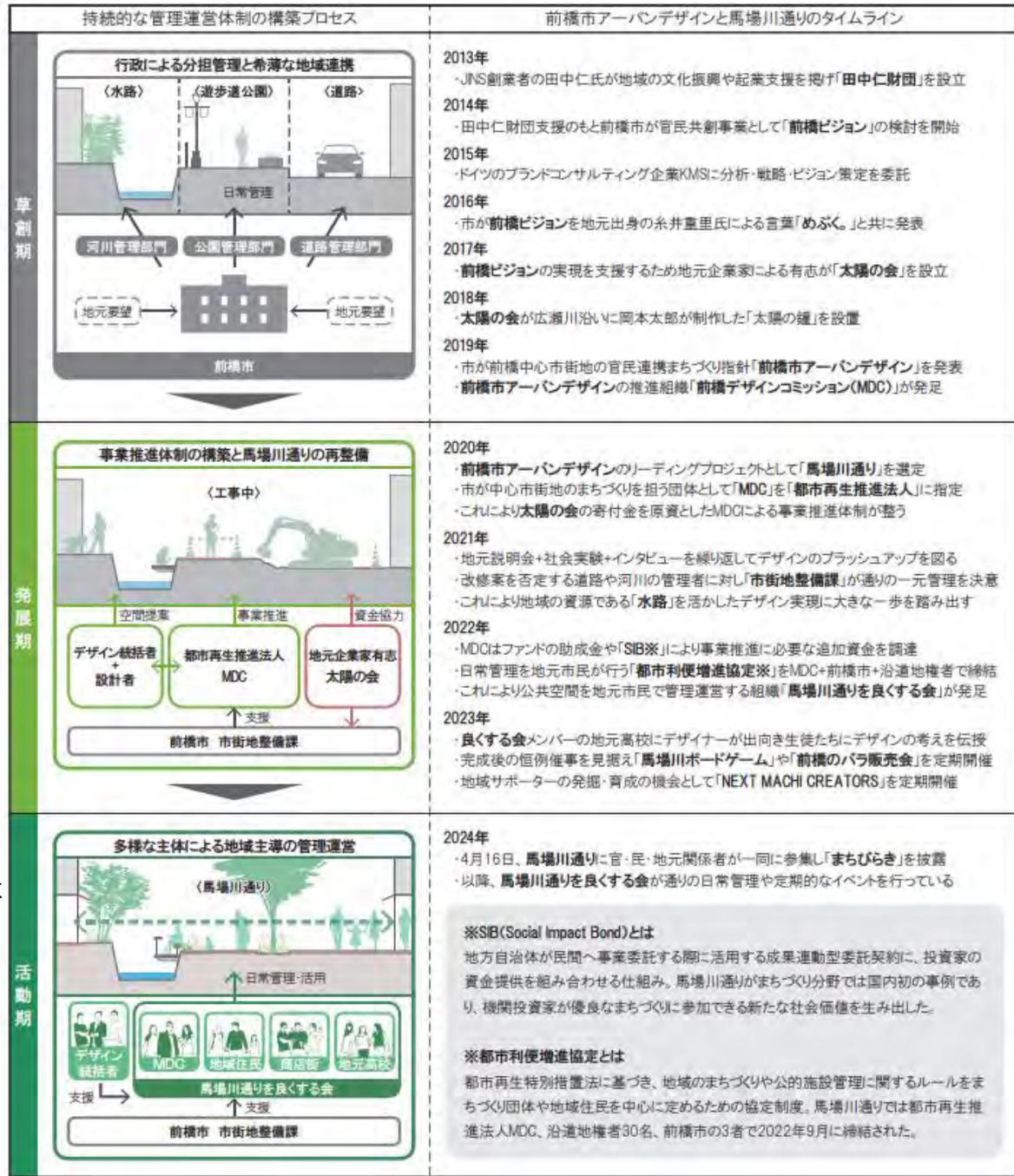


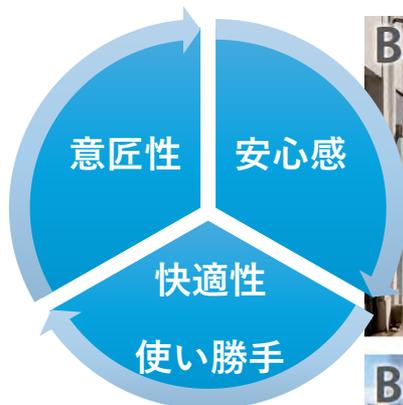
都市再生推進法人
一般社団法人
前橋デザインコミッション (MDC)

- ✓ 前橋市中心市街地空洞化対策
- ✓ 官民連携による200m街路改良
- 都市利便増進協定を市・地域住民等・MDCで締結
- ✓ 公共空間（公園＋市道）を民間整備
- MDCが事業主体として工事
- 民間寄付、ファンド助成、SIB等を原資
- ✓ 官民連携のFM実施
- 地域住民組織「馬場川通りを良くする会」が日常管理
- 住民自治的FMの実現
- ハードの中長期管理を行政に分担
- ✓ 設計計画に住民が参加することでFMの容易性・効率を実現
- ✓ 住民組織FMによってコミュニティ自体を強化して、Civic Prideを醸成する
- 「管理」を楽しみに転化して「賑わい」とコミュニケーション機会とする



➤ コロナ禍前比112%の
歩行者通行量
➤ 32年ぶりの路線価上昇





中央通りより家を望む

250mmの段差を解消し、通り全体をフラットなレンガ舗装に。使い勝手の良いオールジェンダーフレンドリーな高場川通りの日常管理のための倉庫機能も兼ねる



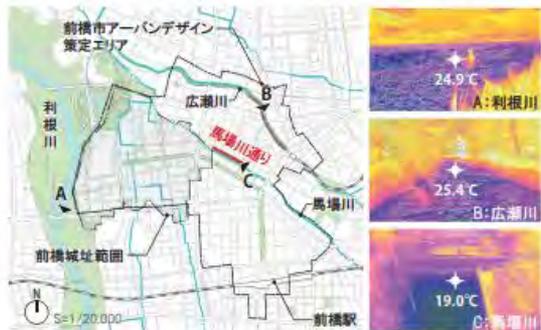
白井屋ホテル下流より西を望む

水路に架かる橋の撤去や減幅により水面を最大化し、3種類のデッキにより誰もが水辺を享受できる滞留空間を実現

- ✓ 住民参加の勉強会や連続ワークショップを通じて組織化
- ✓ 商店街組合を再編して新たな市民組織化
- ✓ 設計計画段階からFMとしての意見を反映させる



水路をまちの環境基盤に再生した空間づくりと仕組みづくり



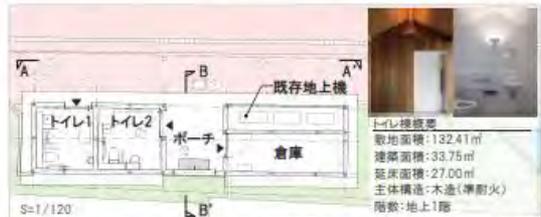
前橋中心市街地と前橋城址、水と緑の関係(左)と河川・水路の水温(右)



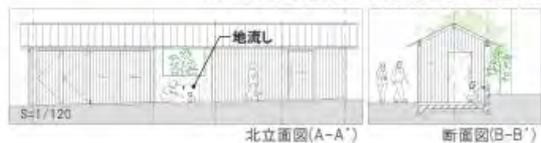
中心市街地に点在する施設群(左)と周辺の状況(右)



配置図



トイレ棟平面図(左)とポーチ内観写真及び概要(右)



北立面図(A-A') 断面図(B-B')

○地元有志の資金による公共空間の整備と官民連携の仕組みによる管理運営の実施

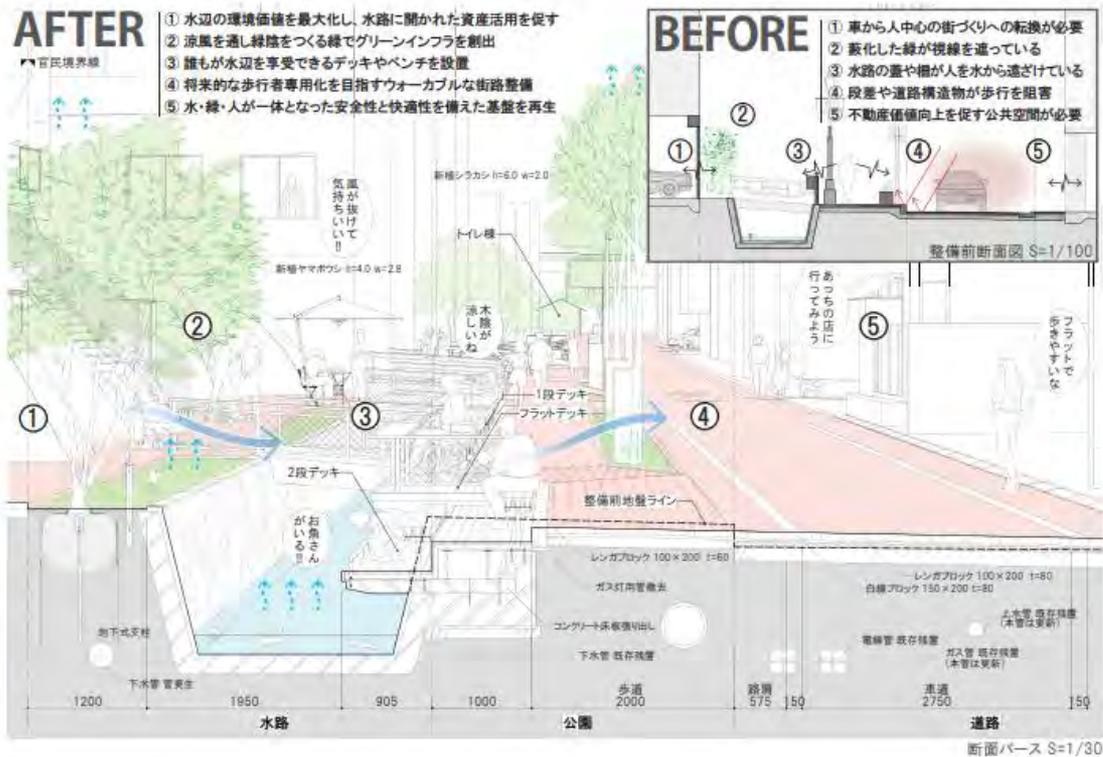
前橋市が掲げる「前橋市アーバンデザイン」のリーディングプロジェクトとして、前橋デザイン委員会 (MDC) が公共工事の資金調達から完成後における管理運営の事務局を担う。事業費は地元企業有志からの寄付金やMINTO機構からの拠出金をもとに設立した前橋市の助成金により調達。前橋市とMDCがタッグを組みながら周辺地権者が都市利便増進協定を結ぶことで、官民が連携して公共空間の管理運営を担う持続可能な社会の仕組みを構築している。

○水路の存在をグリーンインフラやウォークアブルな社会に資する環境基盤へと再編

まちの再生にあたり着目したのは前橋発展の礎となった水路の存在である。戦後の都市化で水路には蓋がされ車が主役のまちに変貌する中、商圏が郊外に移り中心市街地の衰退が始まる。デザインの提案はシンプルで、水路の柵を外して蓋を取り払いデッキやベンチを設けて人と水との関係性をまちなかに取り戻すことであった。酷暑で有名な前橋において役割を終えた水路をまちの冷却装置と捉え直し、安全性と快適性を兼ね備えた環境基盤を実現している。

○多様な主体による市民主導の管理運営体制で中心市街地をつなぎ直す拠点づくり

設計開始から工事完了までの3年間を使い、地元市民を巻き込んだ勉強会やワークショップに加え、社会実験や見学会を継続的に開催し、整備後の運営体制を徹底的に議論してきた。その成果がエリアマネジメント組織「馬場川通りを良くする会」へと発展。かつては水路(準用河川)・遊歩道(公園)・道路(市道)に分かれていた管理窓口を市街地整備課に一本化し、円滑な官民連携体制を構築することで、市民の意志が反映しやすい活動の舞台がまちの中心に整えられている。



断面バース S=1/30